

授業でのICT活用

新学習指導要領が公表されましたが、これに沿うかたちで、授業の中で、ICTを何のために、どのように使ったらよいかを考えていきましょう。

新学習指導要領とICT活用

(1) 新学習指導要領の概要

これまでの学習指導要領は、「何を学ぶか」が中心に記述されていましたが、新学習指導要領では、「何を学ぶか」に加えて「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」ということも記述されています。

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

「どのように学ぶか」には、ICTの活用も含まれており、新学習指導要領には、「視聴覚教材、コンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、・・・」といった表現が随所に記述されています。

学習指導要領の内容を詳しく解説した各教科の「学習指導要領解説」には、ICTの具体的な活用例も掲載されています。

(2) 何ができるようになるか

基本的な考え方として、3つの資質・能力の育成が必要だとされています。

学びに向かう力・人間性

知識・技能

思考力・判断力・表現力

新しい時代に必要となる資質・能力

「知識・技能の習得」に加えて「思考力・判断力・表現力等の育成」が必要だということは、新学習指導要領で初めて出てきたことではなく、現行学習指導要領にも記載されていることです。平成19年に追加された学校教育法・第30条2項にも同様の記述があります。したがって、全く新しいことを教えなければならないと考える必要はあり

ません。しかし、適切な指導のもとで、ICTを活用することにより、これらの能力を高めていくことは十分可能です。思考力・判断力・表現力は、「情報活用能力」の一部と考えてもよいでしょう。

「学びに向かう力・人間性の涵養」は、能力の育成というよりも、主体的に学習に取り組む態度、人間関係を自主的に形成する態度など児童生徒の情意や態度の育成に関わるものです。ICTを活用することにより、学習に対する姿勢や態度を育成していくことが可能です。

(3) どのように学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善が必要だということが言われています。学習指導要領解説総則編には、それぞれ以下の表に示すような学びだと説明されています。

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持つ 見通しを持って粘り強く取り組む 自己の学習活動を振り返って次につなげる
対話的な学び	子供同士の協働を行う 教職員や地域の人と対話する 先哲の考え方を手掛かりに考える
深い学び	知識を相互に関連づけてより深く理解する 情報を精査して考えを形成する 問題を見いだして解決策を考える 思いや考えを基に創造する

このような学びについても、適切な指導のもと、ICTを活用しながら実践していくことができます。

(4) 社会に開かれた教育課程

これは、「これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有することが求められる」という考え方に基づくものです。社会に出て求められる資質・能力は何かということも考えながら、児童生徒のICT活用能力も考えていく必要があります。

段階的なICT環境整備と活用

(1) ICT環境の段階的整備

文部科学省から「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」(後述)が示されていますが、この目標を達成している地域・学校は、まだまだ少ないと言わざるを得ません。この整備目標を一気に達成しようとするのは、一般的な地方自治体の予算から見てかなり困難なことだと思います。ICT環境の現状を十分認識した上で、段階的な整備を進めることが重要です。

では、どのように段階を設定したらよいのでしょうか。ICT環境の面から考えると、たとえば、タブレットPCを使うためには、無線LANや大型提示装置(電子黒板)の整備が必須となります。最近では、無線LANや大型提示装置がないのにタブレットPCを導入しようとする例もよく見られます。前提条件をよく考えずに整備を進めると、せっかく導入したものが十分使えないということになりかねません。前提条件をよく考えて整備順序を決めましょう。

しかし、今あるICT環境は、不十分であるにしても積極的に活用していきましょう。

(2) 教育目的の段階的設定

ICTの活用目的を考えずに、目標達成だけを考えてICT環境を整備するのでは意味がありません。残念ながら、このようなICT環境整備が多いのが現状で、ICT環境を整備した後で、はじめてこれをどう活用しようかと考えることになってしまいます。下の図は、一例ですが、教育目的も段階的に考えていきましょう。本来的には、教育目的は何かを明確にしてから、どのようなICT環境が必要なかを考えるべきです。まずは、「わかる授業」の実践を目指すところから始めてはどうでしょうか。

(3) 教員の指導力の段階的向上

ICTは、教育のための一つのツールなので、ICT環境を整備しただけでは、よりよい教育に結びつきません。効果的な教育ができるかどうかは、教員の指導力にかかっています。教育目的に合わせて、教員の指導力の向上も図っていく必要があります。下の図は一例です。

